



海のごみってどんなものがあるの？



プラスチックごみが一番多く、やっかいです

海のごみで一番多いのは、プラスチックごみ。毎年、約800万トンものごみが海洋に流出しているといわれています。プラスチックごみは素材の特性上、海中で留まっている期間が長く、中には400年以上を漂うものもあるそうです。他に、木材や葉っぱなどの自然物、ガラス、金属などがあります。このままでは、2050年には海にいる魚よりごみの方が多くなるといわれるほど深刻化しています。

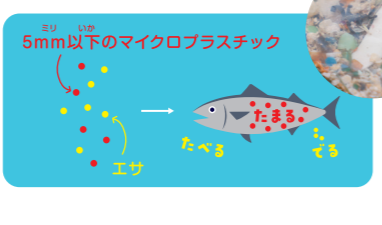
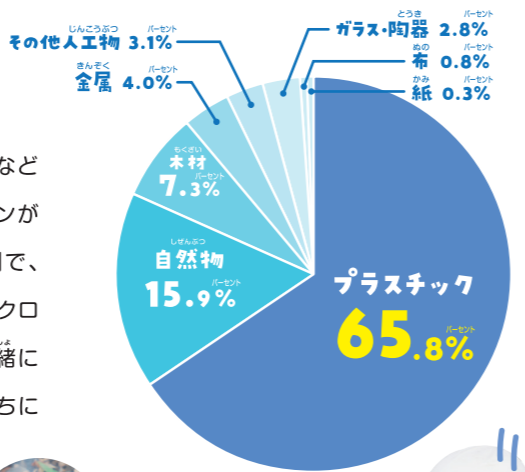
年間 **800万トン** のプラスチックごみ = **ジャンボジェット機 5万機** 分の **ぼくの体重の何倍なんだろう…?**



一番多い「プラスチックごみ」ってどんなもの？

身のまわりにたくさんある、食品や飲料の容器などがあります

私たちのまわりでよく見かける、ペットボトルやレジ袋、食品が入っていた空き容器などです。環境省の調べによると、毎年海に流れ出るプラスチックごみのうち、2~6万トンが日本から発生したものだといわれています。海の生物たちへの影響が特に深刻で、例えばウミガメはレジ袋を好物のクラゲと間違えて食べてしまうことが。また、「マイクロプラスチック」と呼ばれている、細くなったプラスチックの粒を魚たちがエサと一緒に食べてしまうこともあります。その魚を人間が獲って食べている…と思うと、私たちにとても大きな問題になるかもしれません。



名古屋港水族館でくわしく学べるよ！

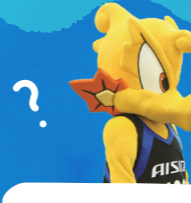


海の問題についての展示室「エコ・アクアリウム」

海の問題やプラスチックごみと生物の関係などを展示解説しています。海岸に漂着したウミガメの胃の中から取り出したプラスチックごみや、愛知県内の海岸で採取したマイクロプラスチックの実物も顕微鏡で観察することができます。名古屋港水族館で海の生き物たちとふれあった後は、海の問題についても考えてみましょう。



イルカパフォーマンスをぜひ間近で見て楽しんでね！



どこで、どんなごみが生まれているの？

山、海、市街地それぞれでごみの種類に特徴があります

ごみは基本的に人間が出すものですが、場所によってごみの種類が変わってきます。畑や田んぼが多い自然豊かなエリアでは、農業で使われる道具や肥料の袋などがごみに。海の周辺では漁業で使う網や釣り糸などがごみに。市街地ではペットボトルやお菓子の空き袋、最近ではマスクのごみが目立ちます。どれも元々は私たちの生活に必要なものなので、海へ流れていってしまわないようにしっかりと捨てることや、ごみを見つけたら拾うことが大切です。



どうして陸上のごみが海へいっちゃうの？

街で捨てられたごみが、川などから流れ込みます

海のごみは、大半が陸上からやってきます。街で捨てられたごみが水路や川に流れだし、やがて海へとたどり着くのです。ごみは大きく分けて、「投棄・ほい捨て系」と「漏洩系」の2つに分類されます。「投棄・ほい捨て系」とは、ごみ箱以外の場所(路上や川、水路など)に捨てられたごみのこと。「漏洩系」とは何らかの原因でごみ箱からあふれ出てしまったごみのこと。モラルの低下が原因なこともあるけれど、ごみ収集所のごみ袋をカラスが破ってしまうなど社会的な仕組みが原因でごみが流出していることもあります。



ごみ流出の原因例

ごみ収集所にあるごみ袋をカラスなどが破り、ごみが散乱して流れ出てしまうことがあります



ごみ箱に捨てたごみの収集がおいつかず、あふれ出てしまうことがあります



RIADってなあに？

RIADとは、カメラで撮影した川の動画から、プラスチックごみが流れている量をはかることができるシステムのこと。海の問題は、その8割が川から海へと入りこんでいますが、RIADを使えばどのくらいの量がどの川から入りこんでいるのかがわかるようになります。



川を流れるごみの量が分かれば、掃除などの取り組みで、ごみを減らせるね。

